

〔植栽環境に適応した街路樹の樹形管理方法の確立〕
街路樹用低木類の観賞性および刈込後の生育特性の評価

長嶋大貴・福原修斗・佐藤澄仁
(緑化森林科)

【要 約】クチナシ、コクチナシ、ヒメシャリンバイは花の観賞性が高い。オタフクナンテン、ヒメシャリンバイ、イヌツゲ「ゴールデンジェム」、イレックス「サニーフォスター」は葉の色に特徴があり、街路に彩りを与えることが可能である。

【目 的】

都内の街路樹は視距の確保が課題になっているとともに、道路管理者からは樹高を低い状態で維持できる低管理コストの樹種、さらには樹種の多様化が求められている。そこで、2019年から新しい街路樹用低木類の評価を行っており、これまでに定植初期の生長と病害虫発生程度を明らかにした。今回は花や葉色など観賞性と、刈込後の伸長特性の評価を行う。

【方 法】

2019年3月19日に、赤土を客土した圃場に、イヌツゲ「ゴールデンジェム」外11樹種と、対照樹種としてサツキおよびヒラドツツジを株間50cmで各樹種10株ずつ定植した。4月から毎月1～2回程度、葉色と開花状況を調査した。葉色は日本園芸植物標準色票と比べて色を同定した。刈込は開花が終了した2021年7月8日もしくは8月10日に行った。刈込前の6月22日と、刈込から回復し新梢の伸びが落ち着いた10月11日に樹高と枝張を調査した。施肥は5月7日に化成8号(N:P₂O₅:K₂O=8:8:8)を100g/m²施用し、除草は適宜行った。

【成果の概要】

1. 開花特性：クチナシ、コクチナシは比較的大きな花を多数つけ、芳香もあることから観賞性が高かった(表1)。ヒメシャリンバイはピンク色の花が美しく、刈込を行うと春だけでなく秋にも開花し、観賞性が高かった。
2. 葉色：オタフクナンテンの成熟葉と、ヒメシャリンバイの新葉は赤系の色で観賞性が高かった(図1)。また、イヌツゲ「ゴールデンジェム」およびイレックス「サニーフォスター」は、春から秋にかけて新葉が黄色を維持した。フイリヒメトベラなど斑入りの樹種は生育期間を通して斑の部分が淡黄色で、明るい印象を与えることができる。
3. 刈込後の生育：刈込後の伸長程度が緩慢な樹種は、イヌツゲ「ヒレリー」、フイリヒメトベラ、ビブルナム、ハリアナム、クチナシ、コクチナシであった(表2)。なお、イヌツゲ「ゴールデンジェム」およびオタフクナンテンは、今回刈込を行う必要がないほど生育が緩慢であった。また、クチナシとコクチナシは、7月に開花があったために刈込時期が他の樹種より遅かったことも生育量の低下につながったと考えられる。コミノネズミモチ「バリエガツム」(流通名：シルバークリペット)は刈込後の伸長が極端に大きく、管理コスト軽減が求められる場所への植栽には不向きと考えられる。

【残された課題・成果の活用・留意点】

クチナシとコクチナシは枯れた花が茶色く目立ち、地面に落ちるため注意が必要である。

表1 街路樹用低木候補樹種の開花特性

樹種	開花時期	花の色	花の大きさ ^a	花の観賞性 ^b	その他
イヌツゲ「ゴールデンジェム」	6月上～中旬	白	極小	×	
イヌツゲ「ヒレリー」	- ^c	-	-	-	
イレックス「サニーフォスター」	5月中旬～下旬	白	極小	×	
オタフクナンテン	-	-	-	-	
コミノネズミモチ「バリエガツム」 流通名：シルバーブリベット	5月中～下旬	白	小	△	
セイヨウツゲ「エレガンテシマ」	5月下旬～6月上旬	白	極小	×	
セイヨウバクチノキ「オットライケン」	-	-	-	-	
クチナシ	7月上旬～下旬	白	大	○	芳香あり
コクチナシ	6月中旬～7月上旬	白	大	○	芳香あり
ヒメシャリンバイ	4月中旬～5月上旬, 9月中旬～10月下旬	薄ピンク	中	○	
ビブルナム ハリアナム	5月上旬～下旬	白	小	△	
フィリヒメトベラ	-	-	-	-	
サツキ	5月中旬～6月下旬	ピンク	大	○	
ヒラドツツジ	4月中旬～5月中旬	白, ピンク	大	○	

a) 極小：直径が5mm程度以下 小：直径が5mm程度以下だが花序を形成 中：直径5mm～15mm程度 大：15mm以上
 b) ×：観賞性がほとんどない △：観賞性がある ○：観賞性に優れる
 c) 調査期間中に開花無し

樹種	部位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	特徴
イヌツゲ「ゴールデンジェム」	上位葉	淡緑黄 (2703) ^a , 明緑黄 (2704), 明緑黄 (2705)							一年通して、直射日光のあたる上部の葉が黄色を呈す。
イレックス「サニーフォスター」	上位葉	明黄 (2505), 鮮緑黄 (2506)		明緑黄 (2705), 鮮緑黄 (2706)					一年通して、直射日光のあたる上部の葉が黄色を呈す。
オタフクナンテン	成熟葉	濃橙赤 (0707)	黄桃 (0704), 橙赤 (0713), 濃橙赤 (0714)				濃赤茶 (0709)	一年通して、一部の葉が赤色を呈す。	
コミノネズミモチ「バリエガツム」	斑 (外斑)	淡緑黄 (2702)							斑の部分が淡黄色を呈す。
セイヨウツゲ「エレガンテシマ」	斑 (外斑)	淡緑黄 (2702)							斑の部分が淡黄色を呈す。
ヒメシャリンバイ	新葉	濃赤茶 (0709), 赤褐 (0710)			赤茶 (1013, 1015)			暗灰褐 (1009)	若い新葉が赤茶色を呈す。
フィリヒメトベラ	斑 (外斑)	淡緑黄 (2702)							斑の部分が淡黄色を呈す。

図1 葉色に特徴のある樹種の発色部位と期間

a) カッコ内の4ケタの数字は、日本園芸植物標準色票における色票番号を示す。

表2 刈込後の樹高および枝張の生長

樹種	樹高				枝張 ^e			
	6/22 調査時 (cm)	刈込 ^d 高さ (cm)	10/11 調査時 (cm)	増加率 ^e (%)	6/22 調査時 (cm)	刈込 ^d 幅 (cm)	10/11 調査時 (cm)	増加率 ^e (%)
イヌツゲ「ゴールデンジェム」 ^a	19.8		20.1		25.0		25.2	
イヌツゲ「ヒレリー」	38.4	35	38.9	11.1	58.0	40	55.0	37.5
イレックス「サニーフォスター」	58.2	35	52.1	48.9	55.9	35	42.8	22.1
オタフクナンテン ^a	47.7		49.1		44.0		46.9	
コミノネズミモチ「バリエガツム」	89.9	40	99.5	148.8	140.3	50	124.7	149.3
セイヨウツゲ「エレガンテシマ」	66.3	30	40.6	35.3	46.2	30	41.1	36.8
セイヨウバクチノキ「オットライケン」	66.3	40	53.2	33.0	67.7	40	53.6	34.0
クチナシ ^b	70.8	40	46.0	14.9	73.3	40	49.7	24.3
コクチナシ ^b	42.4	35	36.6	4.4	56.6	35	40.9	16.9
ヒメシャリンバイ	94.4	50	69.4	38.8	78.9	40	54.9	37.3
ビブルナム ハリアナム	60.8	45	57.0	26.6	77.3	50	66.8	33.6
フィリヒメトベラ	57.7	40	46.8	17.0	65.5	40	54.1	35.1
サツキ	32.4	30	31.4	4.7	36.2	30	35.0	16.7
ヒラドツツジ	36.4	30	35.8	19.2	32.9	30	31.3	4.3

a) 生育が特に緩慢で飛び出した枝も無かったため、刈込は行わなかった。
 b) 7月中に開花したため、開花終了後の2021年8月10日に刈込を行った。
 c) 列植方向と直角方向で測定した枝張
 d) 注意書きの無い樹種は2021年7月8日に刈込実施
 e) 刈込の基準値から2021年10月11日にかけての増加率